

タイ語の名詞修飾要素の分類：名詞修飾の機能体系に関する一考察

高橋清子

kiyoko@kanda.kuis.ac.jp 神田外語大学

〈概要〉

1. 本発表の目的
2. タイ語の名詞修飾表現の分析に必要なタイ語に関する知識
3. 名詞修飾要素の分類
4. 節を名詞化する形式（名詞節化形式）
5. 所有形
6. 名詞修飾要素の機能体系

1. 本発表の目的

- (a) タイ語ではどのような要素が名詞を修飾できるのか、名詞修飾要素の分類を提示しながら、概観する。
- (b) タイ語の名詞修飾表現を具体例として、名詞修飾表現はどう体系化され得るのか、特に名詞修飾要素の機能の違いに注目し、考察する。

2. タイ語の名詞修飾表現の分析に必要なタイ語に関する知識

▲いずれの修飾要素も被修飾要素の後ろに来るのが基本。

名詞修飾表現の構成素の並び順は「名詞(句)+修飾要素」(例：phaasǎa-thay (言語-タイ) ‘タイ語’)。量詞 quantifier を修飾要素とする形式「量詞+名詞句」(例：thúk thii (各-土地) ‘各地’) は例外的。

▲形態素は形態変化（接辞付加などによる屈折や派生）を起こさない。典型的な孤立語。分詞 participle もない。

▲生産的な語形成の方法は（重複 reduplication を含む）合成 compounding。

（重複語/畳語 reduplicates を含む）合成語/複合語 compounds の例は以下の通り。〈複合動詞〉líang-duu (養う-見る) ‘養育する’、〈複合名詞〉mêe-nám (母-水) ‘川’、〈複合形容詞〉dii-dii (良い-良い) ‘陳腐な’、〈複合前置詞〉khǎn-nay (～の脇に-～の中に) ‘～の内側に’、〈複合副詞〉cháa-cháa (遅い-遅い) ‘ゆっくり’、〈複合接続詞〉tèe-waa (逆接接続詞-補語節化形式) ‘しかしながら’、〈複合量詞〉phiaŋ-khêe (ただ～だけ-たった～だけ) ‘～だけ’、〈複合小辞〉rǔuu-kháa (疑念小辞-待遇小辞) ‘～のですか’。

▲複合名詞の構成素パターンは、単純パターンから複雑パターンまで、多様。

単純複合名詞の構成素パターンは、(a) 2つの名詞から成る「N-N」(例：phaa-thũŋ (布-袋) ‘寸胴袋型巻きスカート’) と (b) 2つの動詞から成る「V-V」(例：phim-diit (タイプする-はじく) ‘タイプライター’)。

N-N の2つの名詞の意味関係はいくつかに分類できる。例えば、Class-Item (例：dòk-kláap (花-バラ) ‘バラの花’)、Item-Location (例：chaaw-kháw (人々-山) ‘山岳民族’)、Item-Purpose (例：thũŋ-tháw (袋-足) ‘靴下’)、Possessed-Possessor (例：bàat-phráa (鉢-僧侶) ‘托鉢用の鉢’) など (Singnoi 2000: 253, 256)。

構成素の動詞と名詞が文法関係を有する複合名詞 synthetic nominal compounds の構成素パターン—つまり V と N (S(ubject): Agent, Experiencer, Theme, Instrument; O(bject): Patient; COMP(lement): Place, Time) の組み合わせパターン—は以下の通り (Singnoi 2005: 48–56)。

- (a) S-V / S-[V-O]
1. Agent-V / Agent-[V-O] 例: khon-khàp (人-駆る) ‘運転手’
khon-[khàp-rót] (人-[駆る-車]) ‘運転手’
 2. Experiencer-V / Experiencer-[V-O] 例: phûu-rúu (人-知る) ‘事情に通じた人’
 3. Theme-V 例: plaa-díp (魚-生だ) ‘生魚’
 4. Instrument-V / Instrument-[V-O] 例: môw-[hũn-khâaw] (鍋-[炊く-米]) ‘炊飯器’
- (b) O-V
1. Patient-V 例: klúaj-thôot (バナナ-揚げる) ‘揚げバナナ’
 2. [Patient-V]-Patient 例: [mũu-thôot]-krathiam ([豚-炒める]-大蒜) ‘大蒜添え豚肉炒め’
- (c) COMP-V / COMP-[V-O]
1. Place-V / Place-[V-O] 例: hôŋ-[ráp-khèek] (部屋-[迎える-客]) ‘応接室’
 2. Time-V / Time-[V-O] 例: wan-yùt (日-止まる) ‘休日’
- (d) V-S
1. V-Agent 例: phát-lom (吹く-風) ‘(風が吹く>) 扇風機’
 2. V-Theme 例: wãan-cay (甘い-心) ‘(心が甘い>) 愛する女性’

上記のパターンを組み合わせることで複雑複合名詞が様々に形成される。例えば、[V-N]_N-[N-N]_N (例: [rooŋ-tháw]-[phâa-bay] ([支える-足]_靴-[布-葉]_{帆布}) ‘ズック靴’)、[N-V]_N-V-[N-[N-V]_V]_N (例: [rooŋ-rián]-sǎon-[khon-[taa-bòot]] ([館-学ぶ]_{学校}-教える-[人-[目-盲である]_{盲人}]) ‘盲学校’) (Singnoi 2000: 257)。

khon-[khàp-rót] (人-[駆る-車]) ‘運転手’ は、慣用的職業概念を表す複合名詞である (Savetamalya 1999: 642-645)。「毎日車を運転する」といった副詞修飾や「車を運転し楽曲を聴く」といった動詞句の接続が不可能であり、統語的制約が強い。このような複合名詞は、裸の関係節構文 (例: khon_i [(REL) Ø_i rák rót] ‘車を愛する人’) と単純な複合名詞 (例: khon-dii ‘善人’) の中間タイプと言える。

▲統語的基準による品詞分類 (Prasithratsint 2010) は以下の通り。品詞名は便宜的なもの。他言語で採用されている品詞名と同じであっても、その内実は同じとは限らない。

動詞 verb(V) : +[NEG __]

動詞述語用否定辞 *mây* の後ろに生起する。e.g. เดิน ขอบ สาย เข้าใจ พัฒนา

名詞 noun(N) : -[NEG __], +[__V], +[V __], +[P __], +[__AJ]

否定辞 *mây* と共起しない。形容詞の前に生起する。動詞の前、動詞の後ろ、前置詞の後ろに生起する。e.g. บ้าน ต้นไม้ ความสุข ขาวนา เรา ตั้ว

形容詞 adjective(AJ) : -[NEG __], +[N __]

名詞の後ろに生起する。否定辞 *mây* と共起しない。限定詞 *nii* ‘この’ と共起しない。e.g. ส่วนตัว สุดท้อง นั้น อื่น ไหน ไต ดีๆ ต่างๆ

前置詞 preposition(P) : -[NEG __], {+[__N] / +[__V]}

主要部のない外心構造 *exocentric constructions* の中で名詞あるいは動詞の前に生起する。否定辞 *mây* と共起しない。e.g. กั้น จาก ของ โดย ต่อ ถึง ที่ ใน บน เพื่อ สำหรับ ตั้งแต่ เช่น แก่ กว่า เมื่อ ก่อน

副詞 adverb(AD) : -[NEG __], {+[__V] / +[V __]}

動詞の前あるいは後ろに生起する。否定辞 *mây* と共起しない。限定詞 *nii* ‘この’ と共起しない。e.g. จะ ไม่ คง ก็ เพิ่ง กัน ทันที เหลือเกิน แป้ง จืด ชิกๆ เอง แล้ว ไป

接続詞 conjunction(C) : -[NEG __], {+[N __N] / +[V __V] / +[P __P]}

同等の言語形式の間に生起する (等位接続詞)。否定辞 *mây* と共起しない。限定詞 *nii* ‘この’ と共起しない。e.g. แต่ และ หรือ คือ

量詞 quantifier(Q) : -[NEG __], +[__N], -[V __], -[__V], -[P __]

内心構造 *endocentric constructions* の中で名詞 (主要部) の前に生起する。否定辞 *mây* と共起しない。動詞の前、動詞の後ろ、前置詞の後ろには生起しない。e.g. กิ่ง ครึ่ง ปวง สารพัน ทุก ทั้ง แค่

小辞 particle(PT) : -[NEG __], +[// __], +[__#]

否定辞 *mây* と共起しない。発話の前あるいは後ろに生起する。e.g. เข้อย ไชโย เถอะ ้วย หมม นะ คะ

名詞(N)の下位範疇には、類別詞(例: tua ‘動物、身体に関係するもの(机、椅子、服)、文字などに適用される類別詞’, bay ‘葉状の扁平なもの(刀の刃、耳たぶ、切符や証明書などの書類)、容器(靴、筆筒)などに適用される類別詞’, sèn ‘軟らかめで細長いもの(髪、糸、紐)に適用される類別詞’, lǎŋ ‘屋根のあるもの(家、蚊帳)に適用される類別詞’)、代名詞(例: khun ‘あなた’, chán ‘あたし、俺’, thəə ‘あんた、あいつ’, thàn ‘貴方様、あのお方’, kháw ‘彼、彼女、彼ら、彼女ら、うち’)、数詞(例: nùŋ ‘一’, sǒŋ ‘二’, sip ‘十’)などが含まれる。

形容詞(AJ)には sùn tua ‘個人的な’, sùt thóŋ ‘末っ子の’, tàŋ tàŋ ‘様々な’などが含まれる。形容詞(AJ)の下位範疇には、指示詞(níi ‘この’, nán ‘その/あの’)、疑問詞(nǎy ‘どの’, day ‘どの’)、及びその他の限定詞 determiner の機能を持つもの(zùuun ‘他の’)などが含まれる。状態や性質の意味は、形容詞(AJ)によってではなく、動詞(V)の下位範疇である状態動詞 stative verbs (例: rón ‘be hot; 暑い’, sǔay ‘be beautiful; 美しい’)によって表される。

前置詞(P)は、名詞の前だけでなく、動詞の前にも生起する(例: phúa ‘～のために、～するために’, múa ‘～のときに、～するときに’, kòn ‘～の前に、～する前に’)。前置詞(P)の下位範疇には、名詞化形式 nominalizer、関係節化形式 relativizer、補語節化形式 complementizer、副詞節化形式などの従属節化形式が含まれる。

複数の品詞にまたがる多義語/多機能語が少なくない。例えば、指示詞の níi は 3 つの品詞にまたがる。(a) 名詞(N) ‘これ’(例: **นี่ก็เท่ากับว่าฉันผิดใช่ไหม** ‘これはつまり私が間違っただも同然と言いたいんでしょ?’)、(b) 形容詞(AJ) ‘この’(例: **หนังสือนี้ไม่ใช่ของฉัน** ‘この本は私のではない’)、(c) 主題を標示したり聞き手の興味を喚起したりするときに使う小辞(PT) (例: **รู้ดีกว่าเด็กในกรุงนี้** ทำทางนากลับ ‘都会の子は態度が恐ろしい’)。

表 1: タイ語の指示詞体系

	近い	近くない	とても遠い
代用機能: 名詞句用法	níi これ	nân それ/あれ	nòon 遠くのあれ
連体機能: 修飾用法	~níi この~	~nân その/あの~	~nòon 遠くのあの~
場所	thíi níi ここ	thíi nân そこ/あそこ	thíi nòon 遠くのあそこ

▲繫辞 copula (動詞 pen, 接続詞 khuuu) がなくとも名詞のみで名詞述語が成り立つ(例: (níi) nǎnsǔuu ((これ)、本) ‘(これは)本だ’; (níi) mây-chây nǎnsǔuu ((これ)、名詞述語用否定辞、本) ‘(これは)本ではない’)。

動詞 pen は、状態動詞(生きている)や変化動詞(なる)の他、認定動詞(話者が自らの経験的知識や状況証拠に基づいて主観的に「～である」と認定することを表す判定詞、繫辞)としても機能する。言語化されない推論過程を含み、話者が認定の権限を持っている状況で、自分の出した結論を責任を持って伝えるという話し手の態度を含意として持つ(沢田・コモンワニック 1993)。

一方、接続詞 khuuu ‘即ち’は、否定辞の後ろには生起せず、動詞ではない。

▲動詞には定形性 finiteness の形態的区別(定動詞/不定動詞の区別)がなく、定形性の必須標識もない。定形性に限らず、いわゆる文法範疇概念の値の明示化は必須ではない。規則的に表し分けなければならない機能的意味の体系(文法範疇 grammatical categories)は存在しない。

▲動詞には必須項がない。

▲したがって、句、節、文といった統語単位が曖昧である。句読点をつけることができない。しかしながらアスペクト標識やモダリティ標識が生起し得ない節は断定性 assertiveness の程度が低い「非定形 non-finite」と考えてよい(Givón 1990: 852–864; Bisang 2007: 118)。断定性 assertiveness/定形性 finiteness が高く文らしさの度合いが高い節にはアスペクト標識やモダリティ標識が無理なく生起する。

3. 名詞修飾要素の分類

表 2：タイ語の名詞修飾表現に含まれる修飾要素の用法分布

修飾要素の種類		言及機能： 名詞句用法	連体機能： 修飾用法	叙述機能： 述語用法
単純形式： 単一形態素 single morpheme; 句 phrase	名詞(句)	√	√	√
	類別詞句 (名詞句の 1 種)	√	√	√
	動詞(句)		√	√
	形容詞		√	
	指示詞 (形容詞の 1 種)		√	
	量詞		√	
	前置詞句		√	
複雑形式： 連体修飾節 adnominal clause	関係節	√	√	
	名詞補語節	√	√	

〈単純形式〉

- 名詞(句) (1) plaa-klua (2) plaa sŭi-dɛɛŋ cf. (3) plaa [(thi) sŭi (khɔ̌ɔŋ man) dɛɛŋ]
 fish-salt fish color-be.red fish [(REL) color (GEN PRON) be.red]
 塩干し魚 赤色の魚 (その)色が赤い魚
- 動詞(句) (4) khon-dii (5) khon-[khàp rɔ́t] cf. (6) khon_i [(thi) Ø_i khàp rɔ́t]
 person-be.good person-[drive car] person [(REL) drive car]
 善人 運転手 車を運転する人
- (7) plaa-dip cf. (8) plaa_i [(thi) Ø_i dip]
 fish-be.raw fish [(REL) be.raw]
 生魚 生である魚
- (9) plaa-yâaŋ cf. (10) plaa_i [(thi) Ø_i thùuk [(chán) yâaŋ]]
 fish-grill fish [(REL) PASS (PRON) grill]
 焼き魚 (私に)焼かれた魚 ([私が焼く]という事態を被った魚)
- cf. (11) plaa_i [(thi) (chán) yâaŋ Ø_i]
 fish [(REL) (PRON) grill]
 (私が)焼いた魚
- 形容詞 (12) plaa tàaŋ-tàaŋ (13) plaa-dip tàaŋ-tàaŋ (14) [plaa sŭi-dɛɛŋ] tàaŋ-tàaŋ
 fish various fish be.raw various [fish color-be.red] various
 様々な魚 様々な生魚 様々な赤色の魚
- 指示詞 (形容詞) (15) plaa níi (16) [plaa-thɔ̌ɔŋ [sɔ̌ɔŋ tua]] níi
 fish this [fish-gold [two CLS]] this
 この魚 この二匹の金魚

量詞	(17) <u>kùŋ</u> satawát <u>half</u> century 半世紀	(18) <u>thúk</u> thii <u>every</u> place 各地	(19) <u>thán</u> bâan <u>whole</u> house 家中	(20) <u>khê</u> [săam khon] <u>up.to</u> [three CLF] たった3人だけ
----	---	---	---	--

前置詞句	(21) <u>nán</u> súuu [bon tóʔ] book [<u>on table</u>] 机の上の本	(22) <u>săw</u> [nôok bâan] pillar [<u>outside house</u>] 家の外の柱	(23) <u>khǒŋ</u> - <u>khwǎn</u> [sămráp thəə] present [<u>for PRON</u>] あなたへの贈り物
cf.	(24) <u>nán</u> súuu [lêm [bon tóʔ]] book [CLF [on table]] 机の上の本	cf. (25) <u>săw</u> [tôn [nôok bâan]] pillar [CLF [outside house]] 家の外の柱	

cf. 位置前置詞： 物体や空間の位置を特定する前置詞 (Takahashi 2009: 189–191; 高橋 2017: 134–136)。

(a) 包括位置前置詞： 物体や空間を表す名詞句 (あるいは局所位置前置詞+名詞句) を後ろに伴い、その位置に対して、点、面、領域、方面といった図式的な特徴付けをする (*thii* ‘at’, *thěw* ‘in the region of’, *rǒɔp* ‘around’, *thúa* ‘all over’, *khâŋ* ‘on/to the side of’, *dâan* ‘on/to the side of’, *phaay* ‘in the side of’, *búaaŋ* ‘in the direction of’, *thaay* ‘in the direction of’, *klaay* ‘in the center of, in the middle of’, *rawàay* ‘among’)

(b) 局所位置前置詞： 物体や空間を表す名詞句を伴い、その物体や空間固有の形態 (上部、下部、前部、後部、中、外など) や、重力関係や地理的に固定された方向座標軸によって決まっている方向性 (上、下、川上、川下、北、南など) や、ある視点から見た相対的な方向性 (右、左) といった対立的空間概念の値を特定する (*bon* ‘on’, *lâay* ‘under’, *nay* ‘in’, *nôok* ‘out’, *nâa* ‘in front of’, *lây* ‘behind’, *núa* ‘above, north’, *tây* ‘below, south’, *khwǎa* ‘right’, *sáay* ‘left’)

どちらか1種類だけが使われることもあれば2種類が組み合わされて使われることもある。2種類が組み合わされると、どちらも本来の名詞として機能し、複合名詞となることが多い (例: *khâŋ-bon* ‘upper-side’)

類別詞句 (名詞句)	(26) <u>plaa</u> [sǒŋ tua] fish [<u>two CLF</u>] 二匹の魚	(27) <u>plaa</u> tua-lék fish <u>CLF-be.small</u> 小さい魚	(28) <u>plaa</u> [tua; [(thii) Ø; lék]] fish [CLS [(REL) be.small]] 小さい魚
	(29) <u>plaa</u> [tua [khǒŋ chán]] fish [CLF [GEN PRON]] 私の魚	(30) <u>plaa</u> [tua [nay zàaŋ]] fish [CLF [in watertank]] 水槽の中の魚	

複数の修飾要素が並ぶとき、語用論的条件によって並び順は変わり得る。

- (31) [plaa tua-lék] [sǒŋ tua]
[fish CLF-be.small] [two CLF]
二匹の小さい魚
- (32) [plaa [sǒŋ tua]] tua-lék
[fish [two CLF]] CLF-be.small
小さい二匹の魚
- (33) [plaa-thǒŋ; {[(thii) chán chǒɔp duu Ø;] / [sǒŋ tua] / [khǒŋ phǒ] / [nay zàaŋ]}] nán
[fish-gold {[(REL PRON like see] / [two CLS] / [GEN father] / [in watertank]}] that
その{私が観るのが好きな / 二匹の / 父の / 水槽の中の} 金魚 ({}の中の並び順は変わり得る)

〈複雑形式：連体修飾節 *adnominal clause*〉

タイ語の連体修飾節（関係節/名詞補語節）に使われる述語は、独立文として使われる形式と同じ。

関係節 *relative clause*

主名詞句が節内の動詞と統語的關係（主語や目的語などの文法的關係）を持つ。

1. 関係節化形式 *relativizer* を含む関係節

1.1. *thii*（名詞節化形式 *clausal nominalizer*）を関係節化形式として使う。制限的にも非制限的にも使えるが、タイ語の関係節は一般に非制限的の用法が多い（Suktrakul 1975: 106）。

1.2. *sũn*（非制限的關係節化形式 *non-restrictive relativizer*）を関係節化形式として使う。

1.3. *ʔan*（類別詞 *classifier*）を関係節化形式として使う。主名詞句の指示物は無生物。類別詞と共起しない。文語的。現代タイ語では生起頻度が低い。

2. 関係節化形式を含まない裸の関係節

関係節構文に生起可能な構成素の生起順序：「主名詞句 + (類別詞) + { \emptyset / *thii* / *sũn* / *ʔan*} + 関係節」。

関係節の外に主名詞句があり、主名詞句の後ろに関係節が置かれる *external-head, postnominal type* (Keenan 1985, Lehmann 1986)。

類別詞があると、主名詞句の指示物はより具体的な個体として解釈される（高橋 2011: 256）。

関係節化標識のない裸の関係節は、話者のモダリティ解釈やアスペクト解釈を明示化し得ない（断定性 *assertiveness*/定形性 *finiteness* が低い）。名詞補語節（通常、名詞補語節化形式が必要）および関係節化形式を含む関係節は、話者のモダリティ解釈やアスペクト解釈を明示化し得る（断定性/定形性が高い）。

- | | | | | | | | |
|------|--|---------------|----------------|-----|------|-----------|-------------------|
| (34) | dək _i | [<u>thii</u> | ∅ _i | càʔ | maa | sǎay]] | <i>thii</i> 関係節構文 |
| | child | [REL | | IRR | come | be.late]] | |
| | 遅れて来る子供
(子供↔遅れて来るもの) | | | | | | |
| (35) | dək _i | [<u>sũn</u> | ∅ _i | càʔ | maa | sǎay]] | <i>sũn</i> 関係節構文 |
| | child | [REL | | IRR | come | be.late]] | |
| | 遅れて来る子供
(子供←それは遅れて来る) | | | | | | |
| (36) | #dək _i | [∅ | ∅ _i | càʔ | maa | sǎay] | 裸の関係節構文 |
| | child | [| | IRR | come | be.late] | |
| | (意図する意味) 遅れて来る子供
(「子供は遅れて来る」という叙述文に解釈される) | | | | | | |
| (37) | dək _i | [∅ | ∅ _i | | maa | sǎay] | 裸の関係節構文 |
| | child | [| | | come | be.late] | |
| | 遅れて来る子供
(遅刻児：遅刻する子供一般) | | | | | | |

- (38) ? dèk_i [ʔan Ø_i càʔ maa sǎay] ʔan 関係節構文
 child [REL IRR come be.late]
 (意図する意味) 遅れて来る子供
- (39) ? dèk_i [ʔan Ø_i maa sǎay] ʔan 関係節構文
 child [REL come be.late]
 (意図する意味) 遅れて来る子供
 (主名詞句の指示物が生物の「子供」; 関係節の表現が口語的)
- (40) [chiiwít way-dèk]_i [ʔan Ø_i phǎasùk] ʔan 関係節構文
 life age-child [REL be.happy]
 安楽である幼少期の生活
 (「chiiwít way-dèk 幼少期の生活」や「phǎasùk 安楽だ」は文語的表現)
- (41) khanǒm ʔan-lék [sǒŋ ʔan] ʔan の類別詞用法
 sweets CLF-be.small [two CLF]
 二つの小さい菓子

関係節の中に主名詞句を指示する形式が入らない空所方略 gap strategy を使うことが多いが、口語では主名詞句を指示する代名詞が入る代名詞残存方略 pronoun retention strategy も使う (Yaowapat 2005)。

- (42) nǎŋsǔuu_i [thii kháw cèek Ø_i] gap strategy
 book [REL PRON distribute]
 彼らが配る本
- (43) nǎŋsǔuu_i [thii kháw cèek man_i] pronoun retention strategy
 book [REL PRON distribute PRON]
 彼らが(それを)配る本

名詞句接近度階層 Noun Phrase Accessibility Hierarchy (Keenan and Comrie 1977) の最上位にある最も関係節化されやすい主格名詞句(主語)から最下位に位置する最も関係節化されにくい比較対象物格名詞句まで、全ての格の名詞句が関係節化され得る (Sornhiran 1978: 144–145, Yaowapat and Prasithrathsint 2008)。

- (44) khun rúu-càk khèek_i [thii chán phúut kàp kháw_i] Oblique
 PRON know visitor [REL PRON talk with PRON]
 あなたは私が(彼と)話した訪問客を知っている
- (45) chán plùuk tôn-máy_i [thii rǎak (khǒŋ man_i) yaaw] Possessor
 PRON plant tree [REL root (GEN PRON) be.long]
 私は(その)根が長い木を植えた
- (46) khon_i [thii chán kèn kwàa Ø_i] mii yǎʔ Object of Comparison
 person [REL PRON be.smart than] exist be.plentiful
 私が(その人)より上手い人はたくさんいる

cf. 関係節構文の各タイプの特徴（高橋 2011: 272）

- (a) *thii* 関係節は主名詞句を制限的に修飾する（指示領域を制限する）こともあれば、非制限的に修飾する（情報を付加する）こともある。補足的言い換えに似ており、その特徴は、話し手が意図した特定の指示物の顕著な特徴（特筆性 *noteworthiness* (Ionin 2006)）を表現するところにある。*thii* 関係節構文とは、「特定名詞句」と「特筆的内容を添える名詞句」という 2 つの構成素が並列関係で結ばれた構文であると定義できる。
- (b) *sũŋ* 関係節は主名詞句を非制限的に修飾する（情報を付加する）。タイ語の典型的関係節であり、その特徴は、主名詞句を主題とし、その主題について評言を添えるところにある。*sũŋ* 関係節構文とは、「主題名詞句」と「評言補文節」という 2 つの構成素が弱い従属関係で結ばれた構文であると定義できる。
- (c) 裸の関係節は複合名詞の構成素と同様、常に非定形で、話し手によるアスペクト解釈やモダリティ解釈を明示化できない。かなり慣用化され固定化された紋切り型の概念（抽象レベルの類型的概念として定着している概念）を表すのに適している。

(47) [lǎay lêm]_i thii-diaw [thii Ø_i sanùk]

[many CLF] quite [REL be.enjoyable]

面白いまったくもって多くの本（多くの本↔面白いもの）

（*thii* 関係節は自立度が高く、主名詞句との結び付きが弱いため、間に副詞類の挿入を許す）

(48) * [lǎay lêm]_i thii-diaw [sũŋ Ø_i sanùk]

[many CLF] quite [REL be.enjoyable]

（意図する意味）面白いまったくもって多くの本

（*sũŋ* 関係節は自立度が弱く、主名詞句との結び付きが強いため、間に副詞類の挿入を許さない）

(49) khruu_i [thii raw rúu-càk Ø_i]

teacher [REL PRON know]

我々が知っている先生（先生↔我々が知っているもの）

(50) khruu_i [sũŋ raw rúu-càk Ø_i]

teacher [REL PRON know]

我々が知っている先生（先生←それは我々が知っている）

(51) # khruu_i [Ø raw rúu-càk Ø_i]

teacher [PRON know]

（意図する意味）我々が知っている先生

（「先生は、我々が知っている」という目的語(先生)が主題化された叙述文に解釈される）

(52) raw zàan [rúaŋ nán]_i [sũŋ raw mây khəøy zàan Ø_i tɔɔn dèk-dèk]

PRON read [story that] [REL PRON NEG ever read period child]

我々はその話を読んだ、我々は子供の時に(それを)読んだことがなかった

(53) [khruu phaa dèk-dèk pay duu nǎn]_i [sũŋ raw nǎp Ø_i waa dii mǎak]

[teacher lead children go see movie] [REL PRON consider COMP be.good very]

先生が子供たちを連れて映画を見に行った、我々は(それを)とてもよいと見なす

名詞補語節 noun complement clause

主名詞句が節内の動詞と何ら文法的関係を持たない (Givón 1990: 509, 645–698; Kullavanijaya 2008: 448)。外の関係 (内容補足的修飾) (寺村 1992: 192–205) を表す。ふつうの内容補充 (例: 「太郎が結婚している (という) 事実」) の他、相対的補充 (例: 「先頭集団が走っている前」「火事が広がった原因」) も表し得る。

名詞補語節構文に生起可能な構成素の生起順序: 「主名詞句 + thii + 名詞補語節」

通常、名詞補語節化形式 noun complementizer が必要。現代タイ語では thii (名詞節化形式 clausal nominalizer) を名詞補語節化形式として使う。類別詞と共起しない。

- (54) klin [thii khaw yaaŋ plaa]
 smell COMP PRON grill fish
 彼が魚を焼く匂い
- (55) * klin_i [thii khaw yaaŋ plaa {kàp / dùay} man_i]
 smell [REL PRON grill fish {with / by.means.of} PRON]
 (意図する意味) 彼が(それで)魚を焼く匂い
- (56) rúaaŋ [thii khaw mii khrôp-khrua léew] ふつうの内容補充
 story/fact [COMP PRON exist family PFV]
 彼にはすでに家族があるという {話/事実}
- (57) sǎahèet [thii khaw tōŋ dǎen-thaaŋ pay kruŋ-thêep] 相対的補充
 cause [COMP PRON must travel go Bangkok]
 彼がバンコクに行かなければならなかった原因

4. 節を名詞化する形式 (名詞節化形式 clausal nominalizer)

表3: タイ語の名詞節 clausal noun 「名詞節化形式 clausal nominalizer + 節」の用法分布

	名詞句用法	修飾用法	述語用法
thii + 節	√	√	
kaan + 節 / kaan [thii + 節]	√		

名詞化形式 thii (< thii ‘place’) を含む名詞節 「thii + 節」は名詞句用法と修飾用法を持つ。名詞化形式 kaan (< kaan ‘work, affair, matter’) を含む名詞節 「kaan + 節」 / 「kaan [thii + 節]」は名詞句用法しか持たない。thii と kaan はどちらも、類名詞 class noun (複合名詞 noun compound の構成素となる)、名詞句化形式 lexical nominalizer (名詞句 noun phrase を形成する)、名詞節化形式 clausal nominalizer (名詞節 clausal noun を形成する) の機能を持つ。

cf. 名詞化形式 khwaam (< khwaam ‘sense or substance of a matter; legal case, lawsuit’) は、類名詞と名詞句化形式の機能は持つが、名詞節化形式の機能は持たない。

khwaam + 動詞/名詞 = 抽象的概念を表す複合名詞 (例: khwaam khít ‘考え、思考’)

* khwaam + 節 (例: * khwaam [khaw khít] / * khwaam [thii [khaw khít]] (意図する意味) ‘彼が考えること’)

名詞化形式 nominalizer としての用法は、khwaam は13世紀から、kaan は17世紀から、thii は19世紀から見られる (Prasithratsint 1997)。

表4：thii の意味機能 (Kullavanijaya 2008)

1. 単純名詞 simple noun, generic noun : 「一片の土地、場所」を意味する名詞
2. 類名詞 class noun : 抽象度の高い「ところ」を意味する名詞
3. 複合名詞 compound の構成素 : 「ところ」以外の、抽象度の高い「人、道具、状態」などを意味する名詞
4. 関係節化形式 relative clause marker, relativizer : 名詞の後ろに生起し、修飾節を導く形式 修飾される名詞と修飾節の中の動詞は何らかの統語関係を持つ。すなわち、飾節される名詞は修飾節の中の動詞の主語や目的語である。
5. 補語節化形式 complementizer : 名詞や動詞の後ろに生起し、補語節を導く形式 補語節を従える名詞や動詞と補語節の中の動詞との間には何ら文法関係が認められない。
6. 名詞化形式 nominalizer, clausal nominalizer : 節の前に生起し、その節を名詞化する形式 名詞化された節は、補語節と同様に目的語として機能する他、主語としても機能する。
7. 前置詞 preposition 前置詞 thii の生起は非必須。場所や位置を含意する動詞の後ろには前置詞 thii は生起しないことがある。
8. 序数詞化形式 ordinal numeral marker : 数詞の前に生起し、数詞を序数詞化する形式 他の機能語の thii と語源が異なる可能性がある。
9. 類別詞 classifier 類別詞 classifier の用法は20-21世紀になって確立した。

cf. thii の意味機能の歴史的変化 (Kullavanijaya 2008: 443-463)

1. 単純名詞 > 2. 類名詞 > 3. 複合名詞の構成素 > 4. 関係節化形式、5. 補語節化形式
> 6. 名詞化形式、7. 前置詞、(8. 序数詞化形式) > 9. 類別詞

19-20世紀には、kaan ‘こと’ や sij ‘もの’ といった抽象度の高い意味を表す類名詞の後ろに thii 名詞補語節が生起することが多くなり、その類名詞は省略されることがあったが、そうした類名詞を伴わない thii 名詞補語節の多用が結果として thii 名詞化形式の誕生につながった (Kullavanijaya 2008: 463)。

- (58) kaan [thii khâaphrá?phútthacâw cà? càt hây mii rooŋ-rian sǝn nâŋsǝuu
matter [COMP PRON IRR arrange IRR.COMP exist school teach book
raŋkrit khûm]
English INC]
私が英語学校を設立すること
- (59) [thii krasuaŋ-sùksăa mii nayoobaay daŋ klâaw] nâa cà? tǝŋ thóp-thuan
NMLZ Ministry.of.Education exist policy above-mentioned should must review
教育省に前述のような政策があることは再検討して然るべきだ

thii の多義性/多機能性 (Takahashi 2013, to appear)

- (60) thii (din) generic noun
place (earth)
'place (a piece of land)'
- (61) thii nãŋ class noun
entity sit
'seat'
- (62) thii ciŋ class noun
entity be.true
'in fact (< what is true)'
- (63) nám chaa sǒŋ thii classifier
water tea two CLF
'two tea, tea for two people' (二人前のお茶)
- (64) dèk dèk thii bân preposition
children at house
'the children at home'
- (65) [thii kháw laa ʔòk] thamhây chán lambàak clausal nominalizer
[NMLZ PRON resign] make PRON be.hard
'That he resigned made me feel hard.'
- (66) plaa_i [thii kháw yãŋ Ø_i] relativizer (=clausal nominalizer)
fish [REL PRON grill]
'the fish that he grilled'
- (67) rûaŋ [thii kháw laa ʔòk] noun complementizer (=clausal nominalizer)
fact [COMP PRON resign]
'the fact that he resigned'
- (68) chán sǎ cay [thii kháw laa ʔòk] verb complementizer (=clausal nominalizer)
PRON be.sorry [COMP PRON resign]
'I was sorry that he resigned.'

cf. 動詞補語節化形式 verb complementizer の 3 タイプ (Prasithratsint 2005, Takahashi to appear)

- (a) 名詞節化形式 clausal nominalizer: thii (< place) emotion-V + [thii +節]
(b) 引用補語節化形式 quotative complementizer: wâa (< say) perception/cognition/speech-V + [wâa +節]
(c) 非現実補語節化形式 irrealis complementizer: hây (< transfer) desiderative/volitive.action-V + [hây +節]

kaan の多義性/多機能性 (Takahashi 2013, to appear)

- (69) ŋaan kaan generic noun
work activity
'duties'

- (70) kaan prapaa class noun
matter water.supply
'waterworks'
- (71) kaan suksăa pen phúuun thăan khǒŋ thúk wátthanátham lexical nominalizer
NMLZ study COP foundation GEN every culture
'Education is the foundation of every culture.'
- (72) [kaan càʔ yàa ráaŋ léew hăa khûu mày] clausal nominalizer
[NMLZ IRR divorce PFV seek spouse new]
yôm míʔ chây rúaŋ ŋâay
inevitably NOM.NEG matter easy
'To divorce and look for a new spouse is inevitably not an easy matter.'

5. 所有形 *possessive, genitive*

表5：タイ語の所有形の用法分布

	名詞句用法	修飾用法	述語用法
(a) 所有者名詞句	√	√	√
(b) 属格前置詞句を含む類別詞句 (名詞句の1種)	√	√	√
(c) 属格前置詞句 (< 所有者名詞句を含む名詞句)		√	
(d) 被所有物名詞句 ((c)と同形)	√		√

- (73) {khăa / lûuk-chaay / mùak} {chán / cœn / phûu-chaay [khon nán]} (a)の修飾用法
{leg / son / hat} {PRON / John / man [CLF that]}
被所有物名詞句 所有者名詞句
{私/ジョン/その男}の{脚/息子/帽子}
- (74) mùak [bay [khǒŋ {chán / cœn / phûu-chaay [khon nán]}] (b)の修飾用法
hat [CLF [GEN {PRON / John / man [CLF that]}]]
被所有物名詞句 [類別詞 [属格前置詞 所有者名詞句]前置詞句]類別詞句
{私/ジョン/その男}の帽子
- (75) {khăa / lûuk-chaay / mùak} [khǒŋ {chán / cœn / phûu-chaay [khon nán]}] (c)の修飾用法
{leg / son / hat} [GEN {PRON / John / man [CLF that]}]
被所有物名詞句 [属格前置詞 所有者名詞句]前置詞句
{私/ジョン/その男}の{脚/息子/帽子}
- (76) khǒŋ {chán / cœn / phûu-chaay [khon nán]} (d)
thing {PRON / John / man [CLF that]}
[被所有物名詞 所有者名詞句]名詞句
{私/ジョン/その男}のもの

- (77) [khǒŋ chán] [ʔan ní] (d)の名詞句用法 (名詞述語文の主題)
 [thing PRON] [CLF this]
 [被所有物名詞 所有者名詞句]_{名詞句}
 私のものは、これだ
- (78) [mùak [bay ní]] [khǒŋ chán] (d)の述語用法 (名詞述語文の述語)
 [hat [CLF this] [thing PRON]
 [被所有物名詞 所有者名詞句]_{名詞句}
 この帽子は、私のものだ
- (79) [khǒŋ chán] khuuu [ʔan ní] 繫辞文：(d)の名詞句用法
 [thing PRON] COP.C [CLF this]
 [被所有物名詞 所有者名詞句]_{名詞句}
 私のものは、即ち、これだ
- (80) [mùak [bay ní]] pen [khǒŋ chán] 繫辞文：(d)の名詞句用法
 [hat [CLF this] COP.V [thing PRON]
 [被所有物名詞 所有者名詞句]_{名詞句}
 この帽子は私のものだ (と認定する)

6. 名詞修飾要素の機能体系

表4：タイ語の名詞修飾要素の機能体系

↑	〈修飾要素が <u>単純形式</u> 〉
よ	「名詞＋ <u>名詞/動詞</u> 」
り	慣用化が進めば複合語となる。主名詞の指示物は類型概念として一般化されたもの。
一	《一般的分類としての修飾》
般	
的	「名詞句＋ <u>形容詞/前置詞句/類別詞句(名詞句)</u> 」「 <u>量詞</u> ＋名詞句」 話者の見方が反映される。 《ある基準や図式を背景にして相対的に描写するための修飾》
よ	
り	「名詞句＋ <u>指示詞(形容詞)/疑問詞(形容詞)/その他の限定詞(形容詞)</u> 」 主名詞句の指示物は当該談話文脈の中で同定できる (ことが予測される) 具体的なもの。 《限定するための修飾》
個	
別	〈修飾要素が <u>複雑形式</u> 〉
的	「名詞句＋(類別詞)＋ <u>{∅ / thii}</u> ＋節」《限定するための修飾》
↓	「名詞句＋(類別詞)＋ <u>{thii / sùn}</u> ＋節」《情報を付加するための修飾》

cf. [N]ominal constructions in Thai are better viewed and explained as complex bundles of information that designate not only atomic syntax as the unit of grammatical structure but also semantics, pragmatics, and extralinguistic factors (e.g., social, cultural, and historical aspects). [...] [N]oun phrase structures vary due not only to different modifiers (such as relative clauses, quantifiers, possessive phrases, demonstratives, prepositional phrases, and nominal modifiers) but different pragmatic forces as well (Singnoi 2000: iii).

参考文献

〈日本語〉

- 沢田奈保子・コモンワニック, カモンオーン. 1993. 「名詞述語文の日・タイ対照研究: 認知語用論的観点から」『言語研究』103: 92–116.
- 高橋清子. 2011. 「タイ語の関係節構文」長谷川信子(編)『70年代生成文法再認識: 日本語研究の地平』, 253–275. 東京: 開拓社.
- 高橋清子. 2017. 「タイ語の移動表現」松本曜(編)『移動表現の類型論』, 129–158. 東京: くろしお出版.
- 寺村秀夫. 1992. 『寺村秀夫論文集 I—日本語文法編—』東京: くろしお出版.

〈英語〉

- Bisang, Walter. 2007. Categories that make finiteness: Discreteness from a functional perspective and some of its repercussions. In Nikolaeva, Irina (ed.) *Finiteness*, 115–137. Oxford: Oxford University Press.
- Givón, Talmy. 1990. *Syntax: A Functional-Typological Introduction, Volume 2*. Amsterdam: John Benjamins.
- Ionin, Tania. 2006. This is definitely specific: Specificity and definiteness in article systems. *Natural Language Semantics* 14: 175–234.
- Keenan, Edward L. 1985. Relative clauses. In Shopen, Timothy (ed.) *Language Typology and Syntactic Description, Vol. 2: Complex Constructions*, 141–170. Cambridge: Cambridge University Press.
- Keenan, Edward L. and Bernard Comrie. 1977. Noun Phrases Accessibility Hierarchy and Universal Grammar. *Linguistic Inquiry* 8: 63–99.
- Kullavanijaya, Pranee. 2008. A historical study of /thii/ in Thai. In Diller, Anthony V. N. et al. (eds.) *The Thai-Kadai Languages*, 445–467. London: Routledge.
- Lehmann, Christian. 1986. On the typology of relative clauses. *Linguistics* 24: 663–680.
- Prasithrathsint, Amara. 1997. The emergence and development of abstract nominalization in Standard Thai. In Abramson, Arthur S. (ed.) *Southeast Asian Linguistic Studies in Honor of Vichin Panupong*, 179–190. Bangkok: Chulalongkorn University Press.
- Prasithrathsint, Amara. 2005. Nominalization and categorization of verbs in Thai. In Sidwell, Paul (ed.) *SEALS X V: Papers from the 15th Meeting of the Southeast Asian Linguistics Society*, 73–81. Canberra: Pacific Linguistic.
- Savetamalya, Saranya. 1999. Verbal relative clauses as adnominal modifiers in Thai. In Institute of Language and Culture for Rural Development, Mahidol University at Salaya, Thailand (ed.) *Pan-Asiatic Linguistics: Proceedings of the 4th International Symposium on Languages and Linguistics, Vol. 2, January 8-10, 1996*, 627–646.
- Singnoi, Unchalee. 2000. *Nominal Constructions in Thai*. Ph.D. dissertation, University of Oregon.
- Sornhiran, Pasinee. 1978. *A Transformational Study of Relative Clauses in Thai*. Ph.D. dissertation, University of Texas at Austin.
- Suktrakul, Suthinee. 1975. *A Contrastive Analysis of Relative Clauses in Thai-English*. Ph.D. dissertation, Rutgers University.
- Takahashi, Kiyoko. 2009. Arrival expressions in Thai. *Journal of the Southeast Asian Linguistics Society* 2: 175–193
- Takahashi, Kiyoko. 2013. Quasi-Mermaid Construction in Thai. In Tsunoda, Tasaku (ed.) *Adnominal Clauses and the ‘Mermaid Construction’: Grammaticalization of Nouns (NINJAL Collaborative Research Project Reports 13-01)*, 487–511. Tokyo: National Institute for Japanese Language and Linguistics.
- Takahashi, Kiyoko. to appear. Thai MMC.
- Yaowapat, Natchanan. 2005. Pronoun retention in Khmer and Thai relative clause. In Sidwell, Paul (ed.) *SEALS X V: Papers from the 15th Meeting of the Southeast Asian Linguistics Society*, 121–132. Canberra: Pacific Linguistic.
- Yaowapat, Natchanan and Amara Prasithrathsint. 2008. A typology of relative clauses in mainland Southeast Asian languages. *Mon-Khmer Studies* 38: 1–23.

〈タイ語〉

- Kullavanijaya, Pranee. 2006. *ʔànúprayòok khayǎaj naam: Khunaanúprayòok léʔ ʔànúprayòok tǎəm tem naam*. [Attributive clause constructions: Relative clauses and noun complement clauses]. In Prasithrathsint, Amara (ed.) *Nùaj sǎəj thǐi mii khǎə khàt yéəj naj wajyaakǎən thaj: Nùaj sǎəj khunaanúprayòok nùaj sǎəj prayòok tǎəm tem nùaj sǎəj kariyaa rian léʔ nùaj sǎəj kammawaacòk* [Controversial Constructions in Thai Grammar: Relative Clause Constructions, Complement Clause Constructions, Serial Verb Constructions, and Passive Constructions], 7-65. Bangkok: Chulalongkorn University Press.
- Prasithrathsint, Amara. 2010. *Chanít khǎəj kham naj phaasǎa thaj: Kaan wikhrǎə thaəj wǎakkàyasǎmphān* [Parts of speech in Thai: A syntactic analysis]. Bangkok: A.S.P. Publishers.
- Singnoi, Unchalee. 2005. *Kham naam prasǎm: Sàat léʔ sǐn naj kaan sǎəj kham thaj* [Compound nouns: Science and art of Thai word-formation]. Bangkok: Chulalongkorn University Press.